完全右脚ブロックを呈した Brugada 症候群に関する 検討

中川晃志 永瀬 聡 和田匡史 西井伸洋河野晋久 中村一文 森田 宏 伊藤 浩

【背景】近年、完全右脚ブロック(CRBBB)を呈した特発性心室細動(IVF)が報告されている。一方で、CRBBBにより典型的心電図波形がマスクされた Brugada症候群(BrS)が報告されており、CRBBB を呈する IVFには BrS が含まれている可能性も考えられる。今回われわれは、CRBBBを呈した BrS 患者に関する、以下の 2つの検討について報告する。【研究 1】 BrS 患者 326名の心電図を評価し、CRBBBの頻度および臨床背景との関連について検討した。その結果、25名(7.7%)の BrS 患者において CRBBBが認められ、うち8名(2.5%)において CRBBBにより BrS型心電図波形が不明瞭化されていた。また、CRBBB(+)群では CRBBB(-)群と比較して、有意に心室不整脈の発症が多かった(32% vs. 8%; p < 0.05)。CRBBBは BrSにおける予後予測因子の一つである可能性が考えられた。【研究 2】 Type-1 心電図波形を呈する BrS 患者 23名(うち5名が CRBBBを併存)において EPS中に自己 QRS 波に対して右室単発早期刺激を行い、右室の早期興奮による心電図波形の変化について検討を行った。その結果、右室単発早期刺激により23名中17名(73.9%)に type-1 からtype-2 心電図波形への変化が認められ、type-1 BrS 心電図の成因における右室伝導遅延の関連が示唆された。また、CRBBBを呈していた5名すべてにおいて CRBBBが是正され、典型的 BrS 波形が明瞭化された。本法は、CRBBB例における BrS 波形の明瞭化に有用であると考えられた。

Keywords

- Brugada 症候群
- ●完全右脚ブロック
- ●特発性心室細動

岡山大学医学部循環器内科

(〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町 2-5-1)

Complete Right Bundle Branch Block in Brugada Syndrome

Koji Nakagawa, Satoshi Nagase, Tadashi Wada, Nobuhiro Nishii, Kunihisa Kohno, Kazufumi Nakamura, Hiroshi Morita, Hiroshi Ito